

2024年9月期 決算の概要

2024年11月8日



DAISHI HOKUETSU
Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

証券コード **7327**

※ 第四北越フィナンシャルグループを「第四北越FG」または「FG」と記載しております

2024年9月期 主なポイント



DAISHI HOKUETSU

Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

“飛躍のステージ”

第三次中期経営計画

(3rd Stage : 2024－2026年度)

2024年9月期

“飛躍のステージ”と位置付ける「第三次中期経営計画」の
初年度として順調なスタート

＜ FG連結中間純利益はFG設立以来の最高益を計上 ＞



FG連結中間純利益は、当初および上方修正後の業績予想をいずれも上回り、
かつ前年同期比でも増益

✓ 中間純利益としては、FG設立以来の最高益を計上



2025年3月期通期のFG連結当期純利益を250億円（当初比+20億円）へ上方修正
かつ第三次中期経営計画の最終年度目標を350億円（当初比+80億円）へ上方修正

✓ 第三次中期経営計画の順調な進捗などを踏まえた今後の見通しや、金融政策変更
（マイナス金利解除・政策金利引き上げ等）による影響などを新たに織り込む



2025年3月期の中間配当の増配および期末配当予想の上方修正

✓ 株主還元方針を見直し、配当性向を35%程度から40%程度へ引き上げ

FG連結中間純利益

FG連結 (億円)

138

146

142

修正業績予想
(2024/7公表)

105

業績予想
(2024/5公表)

2023年9月期

2024年9月期

前年同期比

+ 8億円
(+ 6.0%)当初業績
予想比+ 41億円
(+ 39.5%)修正業績
予想比+ 4億円
(+ 3.1%)

部門別 中間純利益の状況

銀行単体 (億円)

104

130

123

修正業績予想
(2024/7公表)

86

業績予想
(2024/5公表)

2023年9月期

2024年9月期

前年同期比

+25億円
(+24.6%)当初業績
予想比+44億円
(+51.9%)修正業績
予想比+7億円
(+6.2%)

部門別 中間純利益の状況

グループ会社部門 (億円)

※ 持株会社・銀行を除くグループ会社の
親会社株主に帰属する中間純利益の合計

18



2023年9月期

16



2024年9月期

前年同期比

▲1億円

(▲8.5%)

証券事業

前年同期比+0.8億円 (+13.2%)

－ マーケット動向を捉えたコンサルティング
提案の実践やコスト削減などにより増益

信用保証事業

前年同期比▲1.8億円 (▲38.1%)

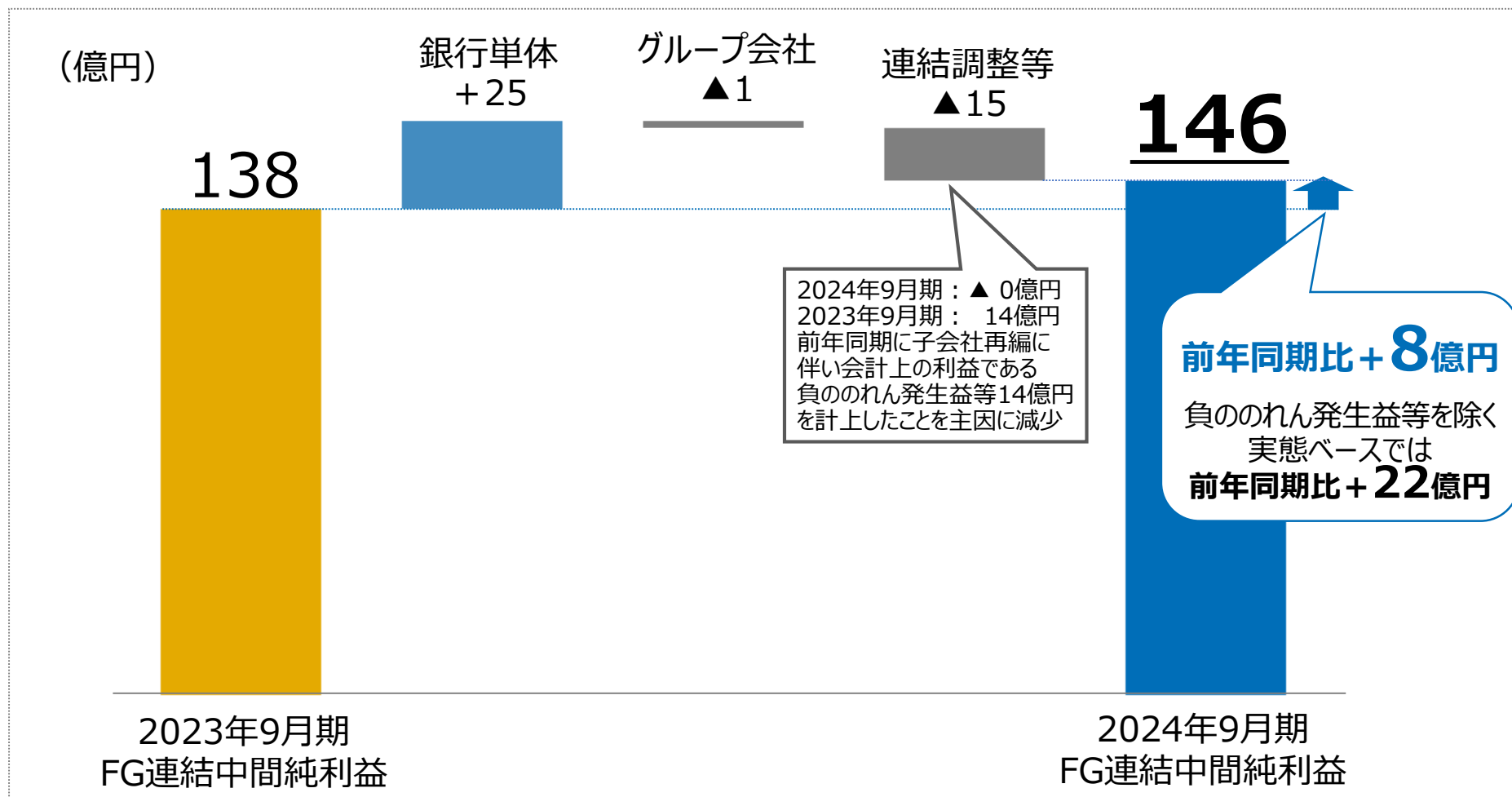
－ 信用コストの増加などにより前年を下回る

システム事業

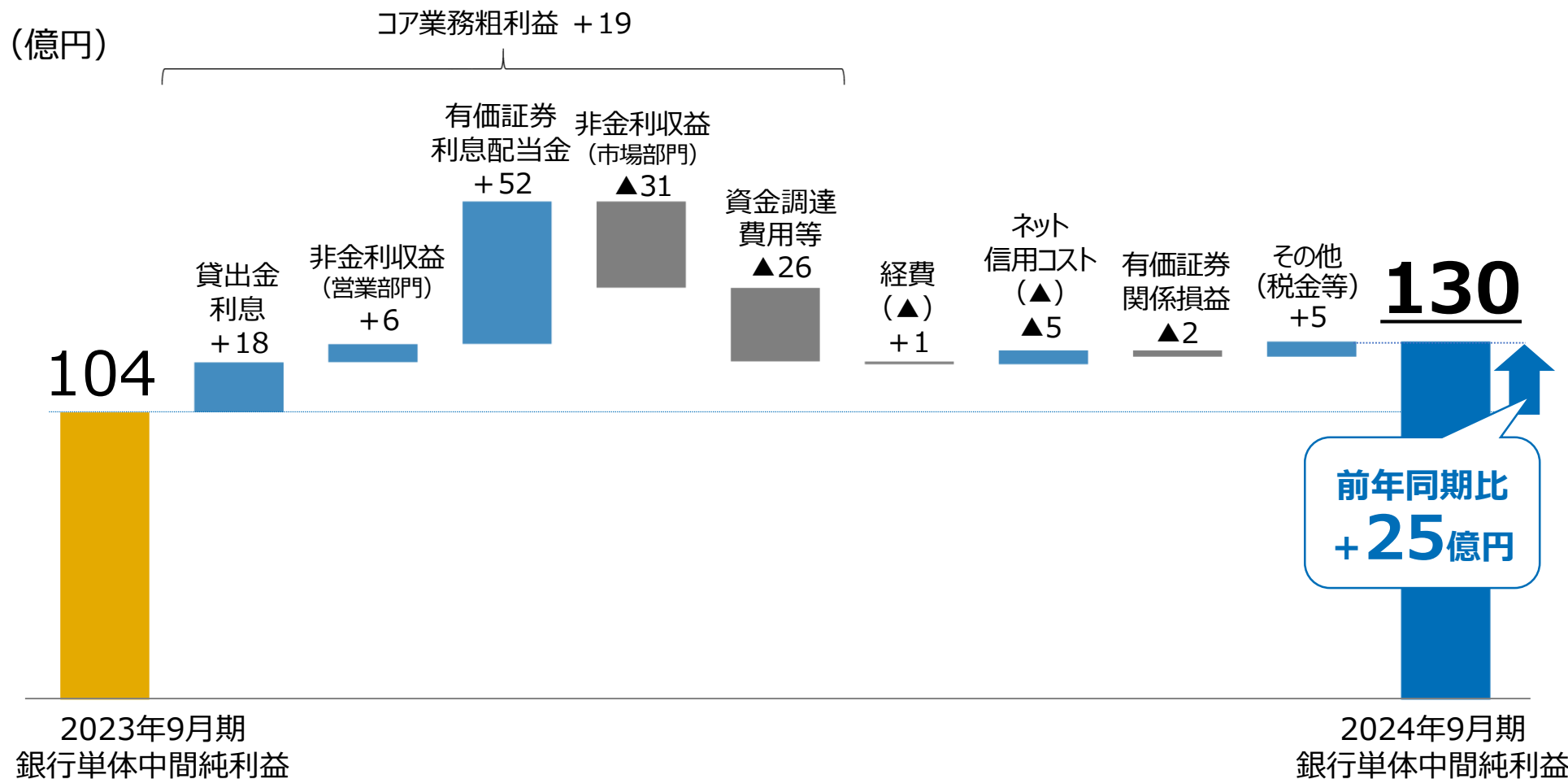
前年同期比▲1.8億円 (－)

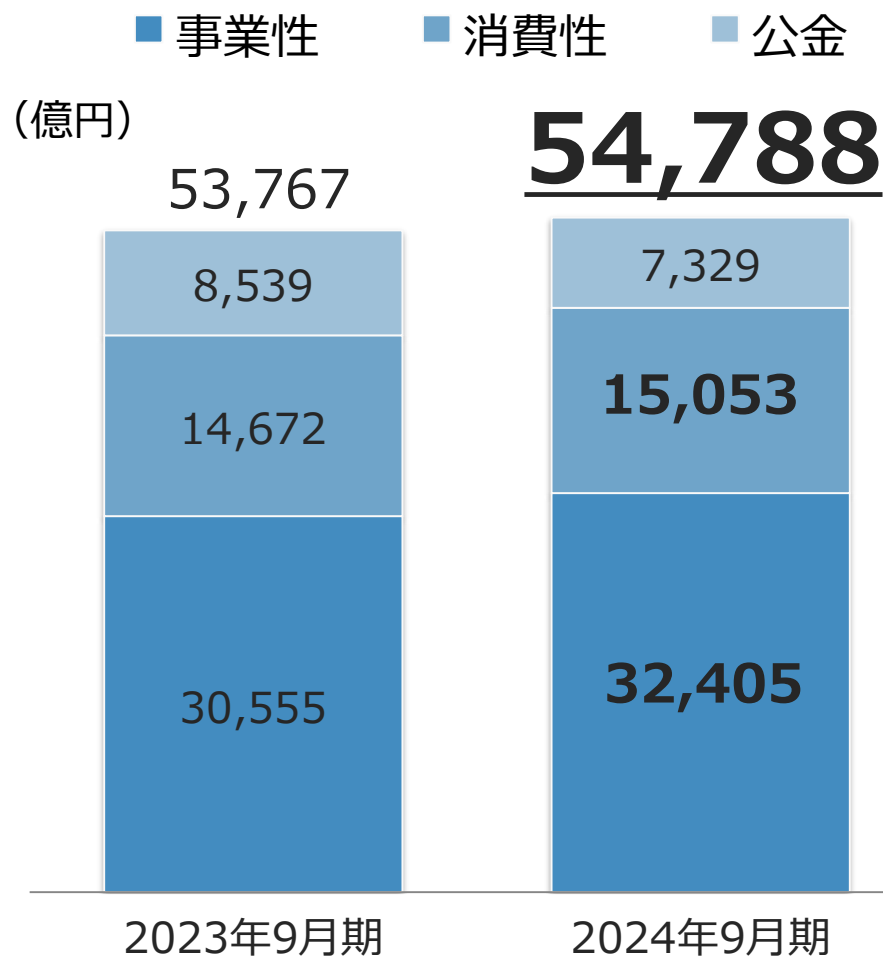
－ 前年に計上した大口案件の反動減などにより前年を下回る

FG連結 増減要因

銀行単体の増益により
FG連結中間純利益は増益

コンサルティング機能の強化によりトップライン（コア業務粗利益）を増強 銀行単体の中間純利益は増益





前年同期比 + 1,020億円 (+ 1.8%)

消費性

前年同期比 + 380億円 (+ 2.5%)

- 非対面チャネルの活用などにより住宅ローン・無担保ローンともに増加

事業性

前年同期比 + 1,850億円 (+ 6.0%)

- 県内は実質無利子・無担保融資（ゼロゼロ融資）の繰り上げ返済の継続などを要因に減少
- 県外は資金需要のある大企業向けなどが増加

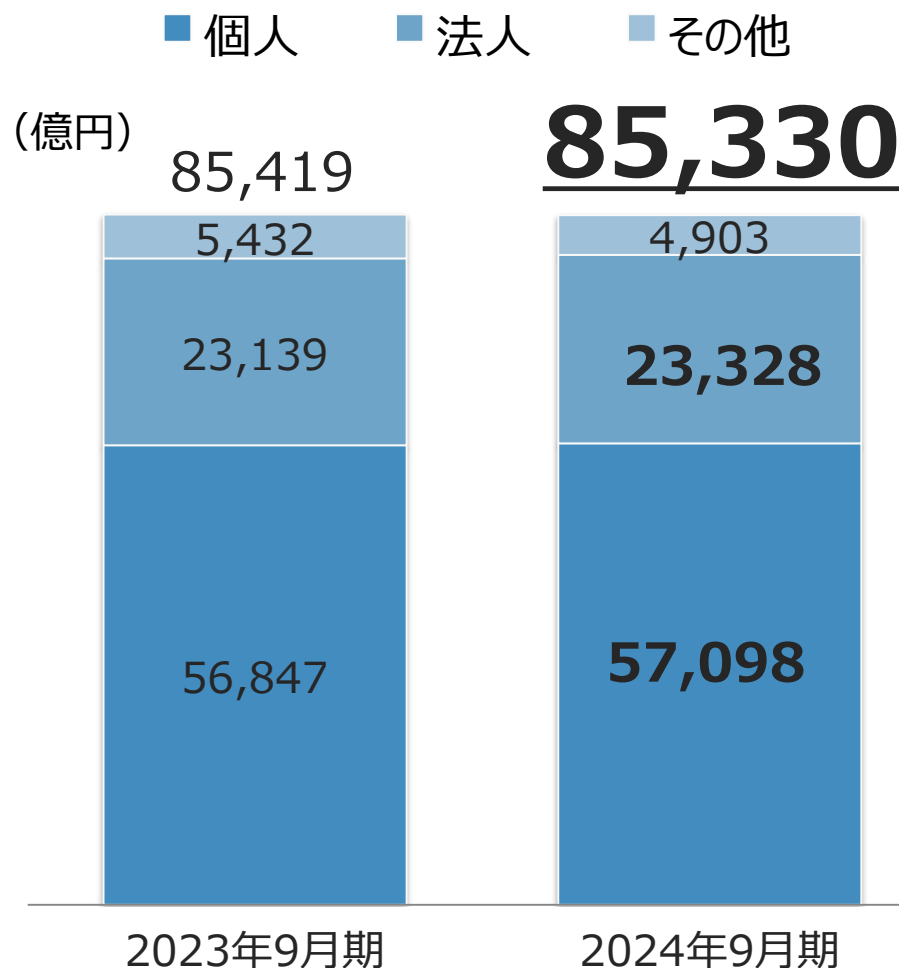
貸出金
平残

53,073

54,550

前年同期比 + 1,477億円 (+ 2.7%)

- 消費性貸出平残 同 + 418億円 (+ 2.8%)
- 事業性貸出平残 同 + 2,030億円 (+ 6.8%)



前年同期比

▲88億円
(▲0.1%)

法人

前年同期比 + 188億円 (+0.8%)

個人

前年同期比 + 251億円 (+0.4%)

その他（公金等）

前年同期比 ▲528億円 (▲9.7%)

－法人・個人は順調に増加するものの、税収や交付金などの変動による公金預金の減少を要因に末残は減少。なお、預金等平残は増加

預金等
平残

86,139

86,644

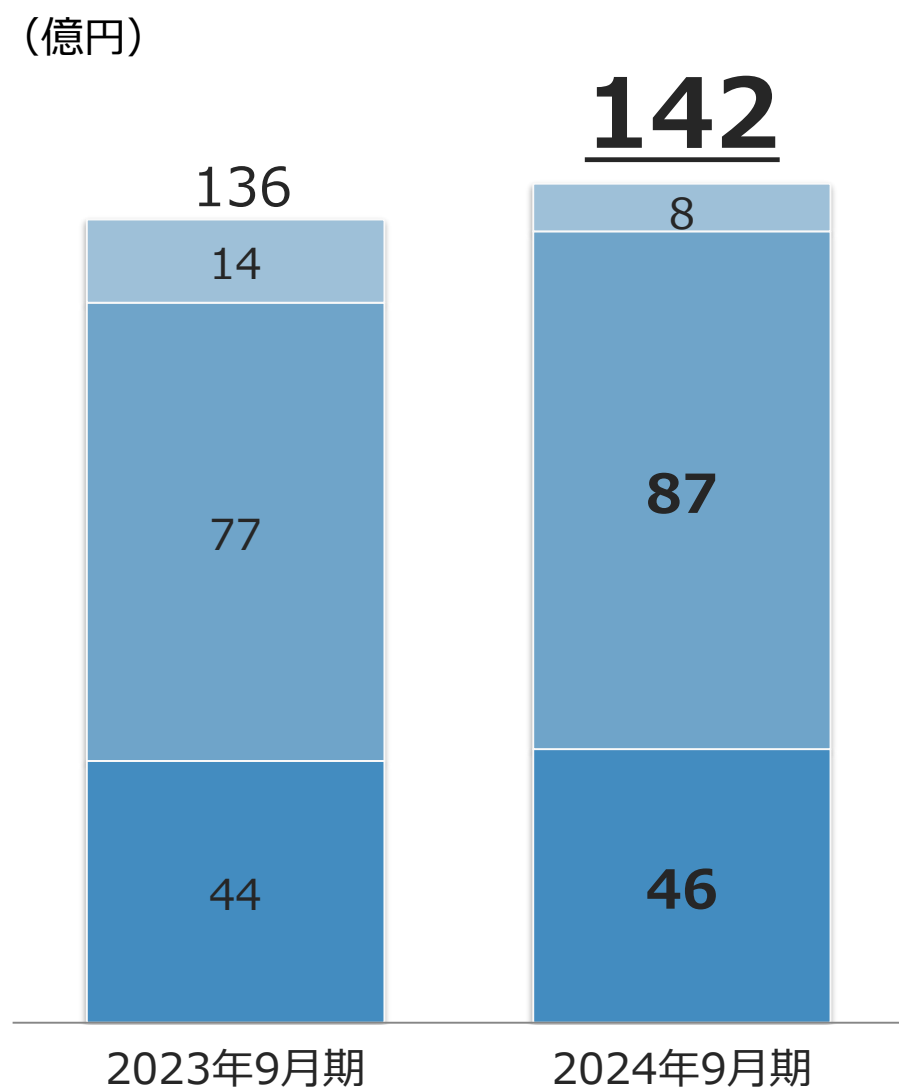
前年同期比 + 505億円 (+0.5%)

－法人預金等平残 同 + 198億円 (+0.8%)

個人預金等平残 同 + 610億円 (+1.0%)

■ 資産運用アドバイス ■ 金融ソリューション ■ その他

(億円)

**前年同期比 +6億円
(+4.8%)****金融ソリューション収益**

前年同期比 +10億円 (+14.0%)

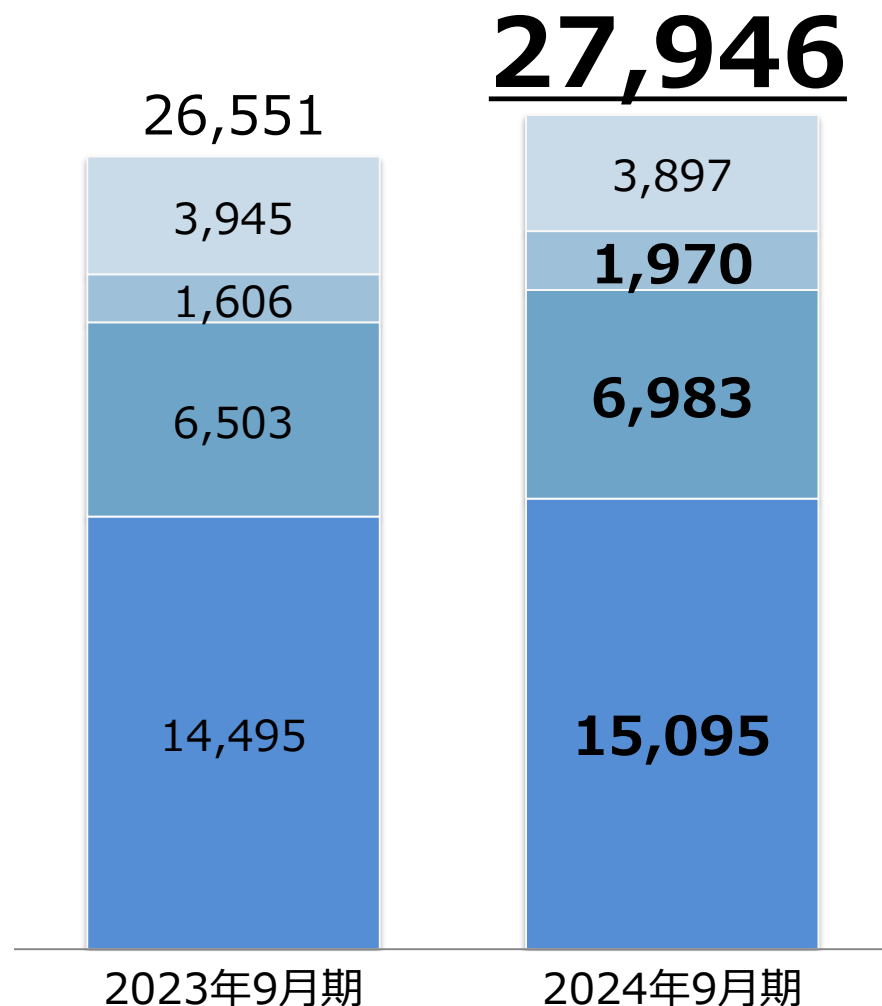
- 為替デリバティブ取引が増加

資産運用アドバイス収益

前年同期比 +2億円 (+5.1%)

- 保険や投資信託の販売が増加

■ 国内債券 ■ 外国証券 ■ 株式 ■ その他証券
(億円)



前年同期比 **+1,394億円**
(+5.2%)

株式

前年同期比 +363億円 (+22.6%)

－マーケット動向を捉えた積み増しにより増加

外国証券

前年同期比 +479億円 (+7.3%)

－債券購入と金利スワップを組み合わせる金利リスクを抑制しながら収益獲得を図るアセットスワップおよびジニーメイ債の積み増しなどにより増加

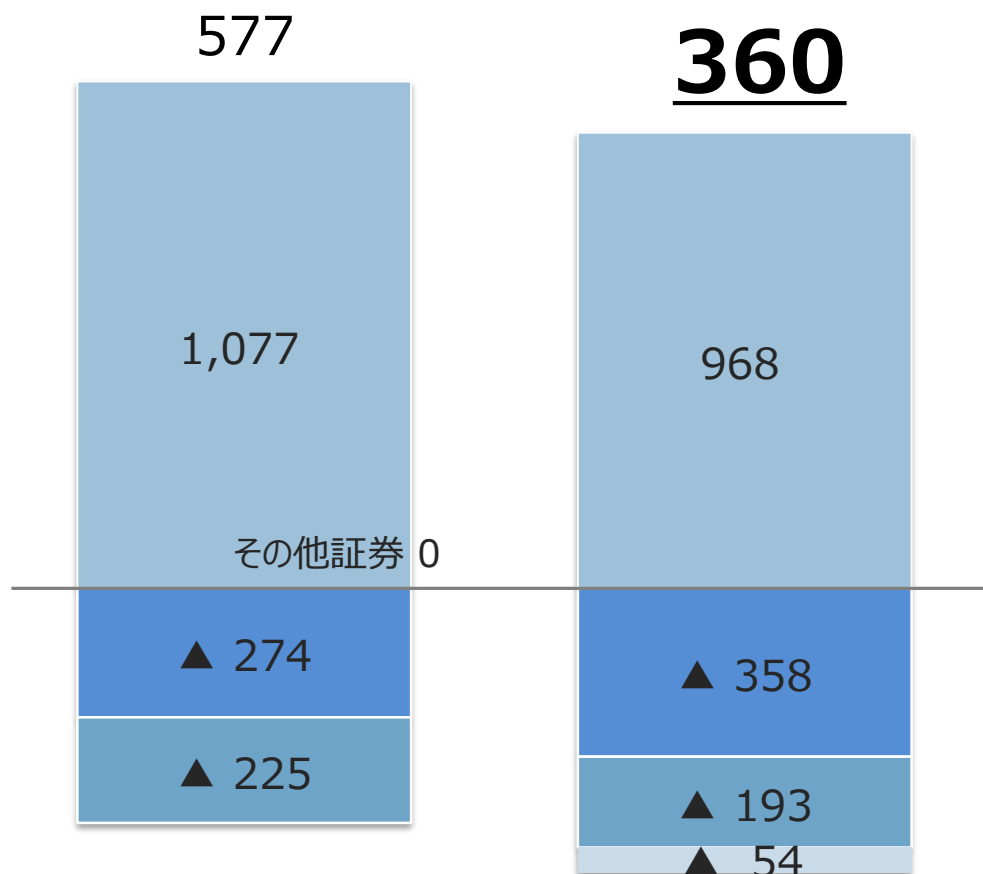
国内債券

前年同期比 +600億円 (+4.1%)

－国債やアセットスワップの積み増しなどにより増加

■ 国内債券 ■ 外国証券 ■ 株式 ■ その他証券

(億円)



有価証券評価損益

2024年3月期比▲216億円

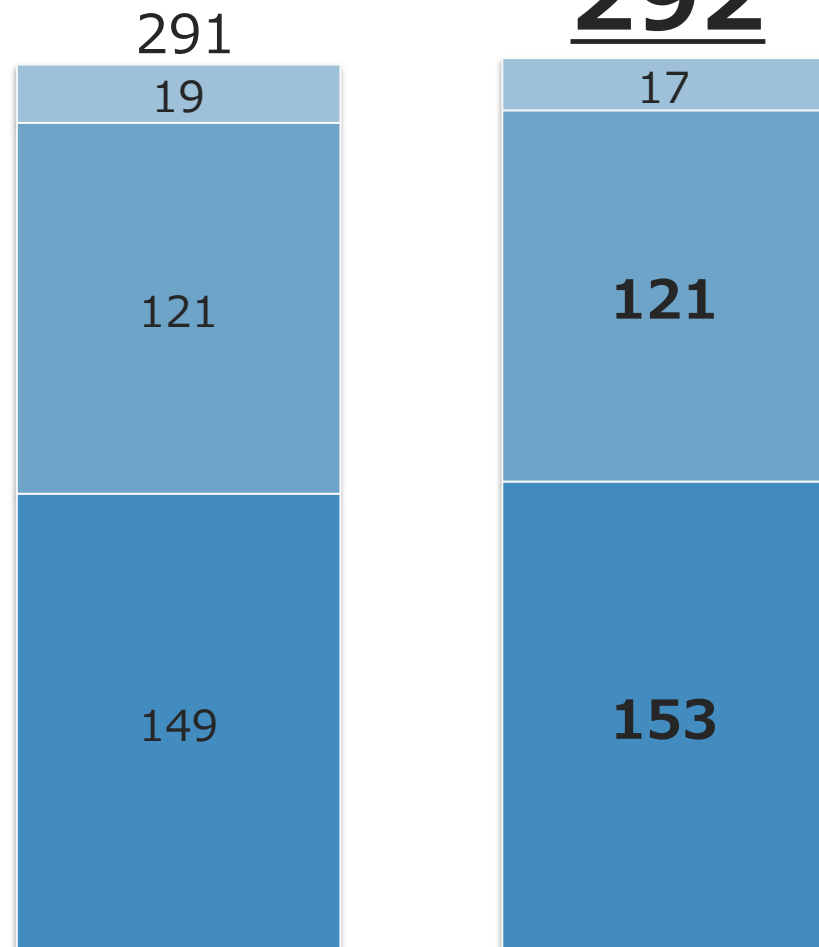
- － 外国証券はポートフォリオ改善に向けた売却を進めたことなどから評価損益が改善
- － 一方、国内金利の上昇および株価の下落により国内債券・株式の評価損益が減少

2024年3月期

2024年9月期

■ 人件費 ■ 物件費 ■ 税金

(億円)



前年同期比 **+ 1億円**
(+ 0.3%)

物件費

前年同期比▲0億円 (▲0.3%)

－コンサルティング機能の強化やお客さまの利便性向上に向けた戦略的投資などを行う一方、厳格なコスト管理を実施

人件費

前年同期比+3億円 (+2.5%)

－賃上げや人的資本の強化に向けた人財育成投資を実施

2023年9月期

2024年9月期

■ 不良債権比率 ■ ネット信用コスト

(%)

2.23

2.18

不良債権比率

前年同期比▲0.05pt

(億円)

21

16

ネット信用コスト

前年同期比▲5億円

- ー 営業部門と審査部門が連携した伴走型の経営改善・事業再生支援などによりネット信用コストは減少
- ー グループ機能を活用したきめ細かな資金繰りや経営改善・事業再生などのご支援に引き続き注力

2023年9月期

2024年9月期

2025年3月期 業績予想

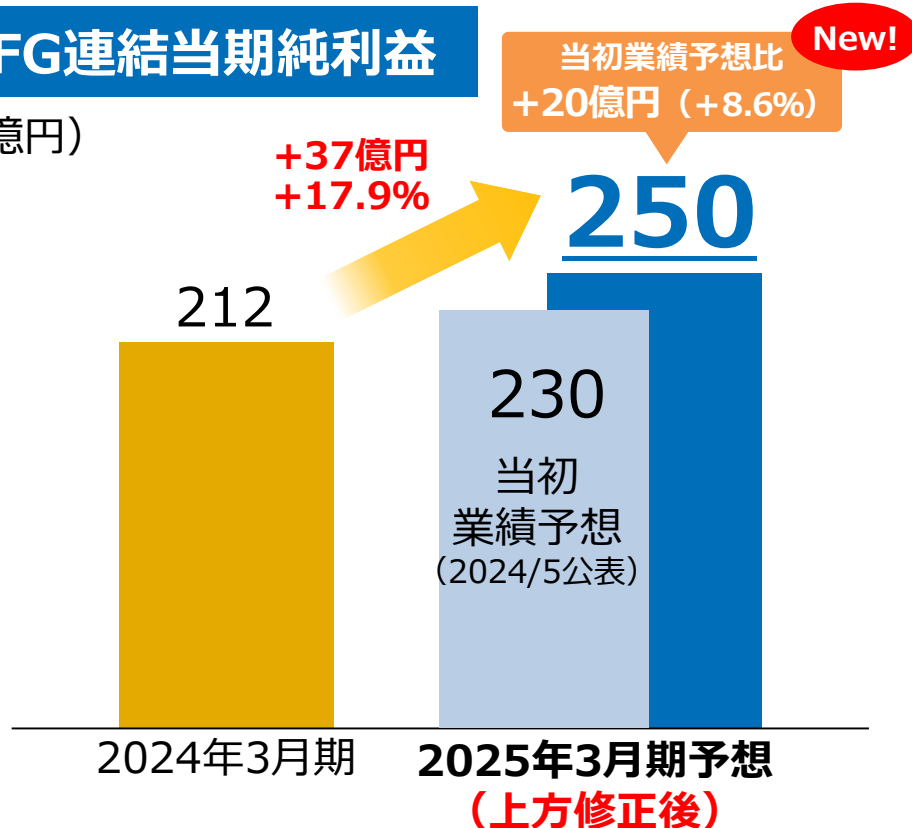
上方修正

- **FG連結当期純利益は、当初予想（2024/5公表）の230億円から+20億円（+8.6%）上方修正し前年比+37億円（同+17.9%）増益の250億円を見込む**

- 「第三次中期経営計画」で取り組んでいる「グループ経営の深化・探索」を通じたグループコンサルティング機能の発揮や市場金利の上昇などにより、トップライン（資金利益・非金利収益等）が当初予想を上回るとともに、経費や信用コストが当初予想を下回ることから2025年3月期通期業績予想を上方修正
- なお、今後の経営環境やマーケット動向等を見極めながら、必要に応じて計画の見直しを行う方針

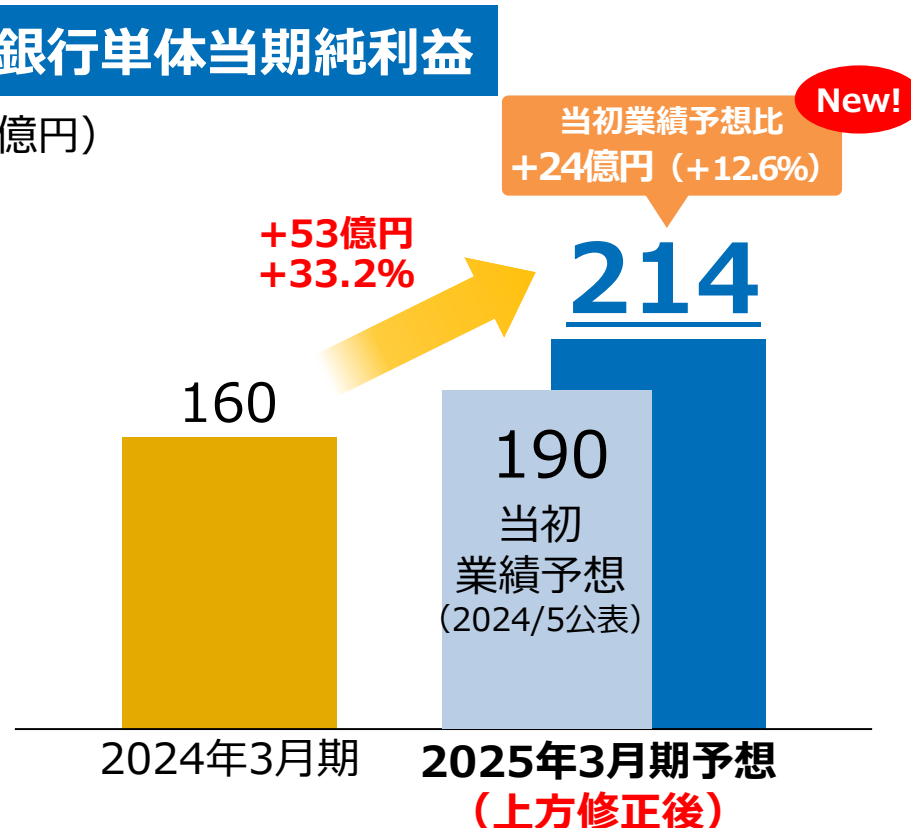
FG連結当期純利益

(億円)



銀行単体当期純利益

(億円)



第三次中期経営計画 経営指標目標の修正

上方修正

- “飛躍のステージ”と位置付ける「第三次中期経営計画」における経営指標目標を上方修正
- 中期経営計画の最終年度のFG連結当期純利益目標は350億円へ（当初目標比+80億円）
 - 第三次中期経営計画は、マイナス金利解除前の金利をベースに策定していたことから、現在の政策金利などによる影響を織り込むとともに、足元で順調に業績が推移していることなどを踏まえ、経営指標目標を上方修正
 - なお、今後の経営環境やマーケット動向等を見極めながら、必要に応じて計画の見直しを行う方針

経営指標目標 (KPI) －第四北越FGの 財務的課題－	第二次中期経営計画	第三次中期経営計画（2024－2026年度）		
	2024/3期 (2023年度)	2027/3期（2026年度） 当初目標	上方修正後 目標	当初目標比
連結当期純利益	212億円	270億円	350億円	+80億円
連結OHR	65.1%	61%台	57%台	▲4pt
連結ROE	4.6%	5%以上	6.5%以上	+1.5pt
連結自己資本比率	10.03%	10%以上	－	－

株主還元方針の見直し

第四北越フィナンシャルグループ 株主還元方針（2024年11月変更）

金融グループの公共性に鑑み、将来にわたって株主各位に報いていくために、収益基盤の強化に向けた内部留保の充実を考慮しつつ、安定的な株主還元を継続することを基本方針といたします。

変更

具体的には、1株当たり配当金は原則として累進的とし、配当性向は40%程度とします。
自己株式の取得は業績や市場環境等を総合的に考慮したうえで機動的に実施します。

なお、当期純利益の増強を基本としてROE向上に取り組んでいく方針であり、早期に5%以上を達成のうえ、さらに高い水準を目指します。

変更前

配当性向35%程度

株主還元率40%目処
(配当金と自己株式取得合計)

変更後

配当性向40%程度

自己株式取得は機動的に実施

New!

中間配当（増配）・期末配当予想（増配）

- 変更した株主還元方針（☞詳細P16）に基づき、2025年3月期の中間配当を増配するとともに、期末配当予想を修正（増配）

	中間	期末（予想）	年間
前回予想 (2024/7公表)	90円00銭	45円00銭	—
株式分割前換算		90円00銭	180円00銭
New! 今回修正予想 (2024/11公表)	—	56円00銭 (前回予想比+11円)	—
株式分割前換算		112円00銭 (前回予想比+22円)	224円00銭
当期実績	112円00銭 (前回予想比+22円)	—	—
【参考】2024年3月期実績 (株式分割前)	70円00銭	75円00銭	145円00銭

- 注：1. 2024年9月30日を基準日とする中間配当金は、分割前の株式数を基準とします。
 2. 2025年3月31日を基準日とする期末配当金は、分割後の株式数を基準とします。
 3. 年間配当金（予想）につきましては、株式分割の実施により単純合計ができないため、上表において「—」と表示とし、株式分割前換算での配当金のみを表示しています。



DAISHI HOKUETSU
Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

お問い合わせ先

第四北越フィナンシャルグループ

経営企画部

T E L 025-224-7111

E-mail g113001@dhbk.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。